



Kanazawabunko Geijyutsusai



Ohokagawa Art Project

文化芸術による地域づくり事業 実施レポート



横浜アートサイト2010 COMMUNITY + ART



Sakae de tsunagaru Art



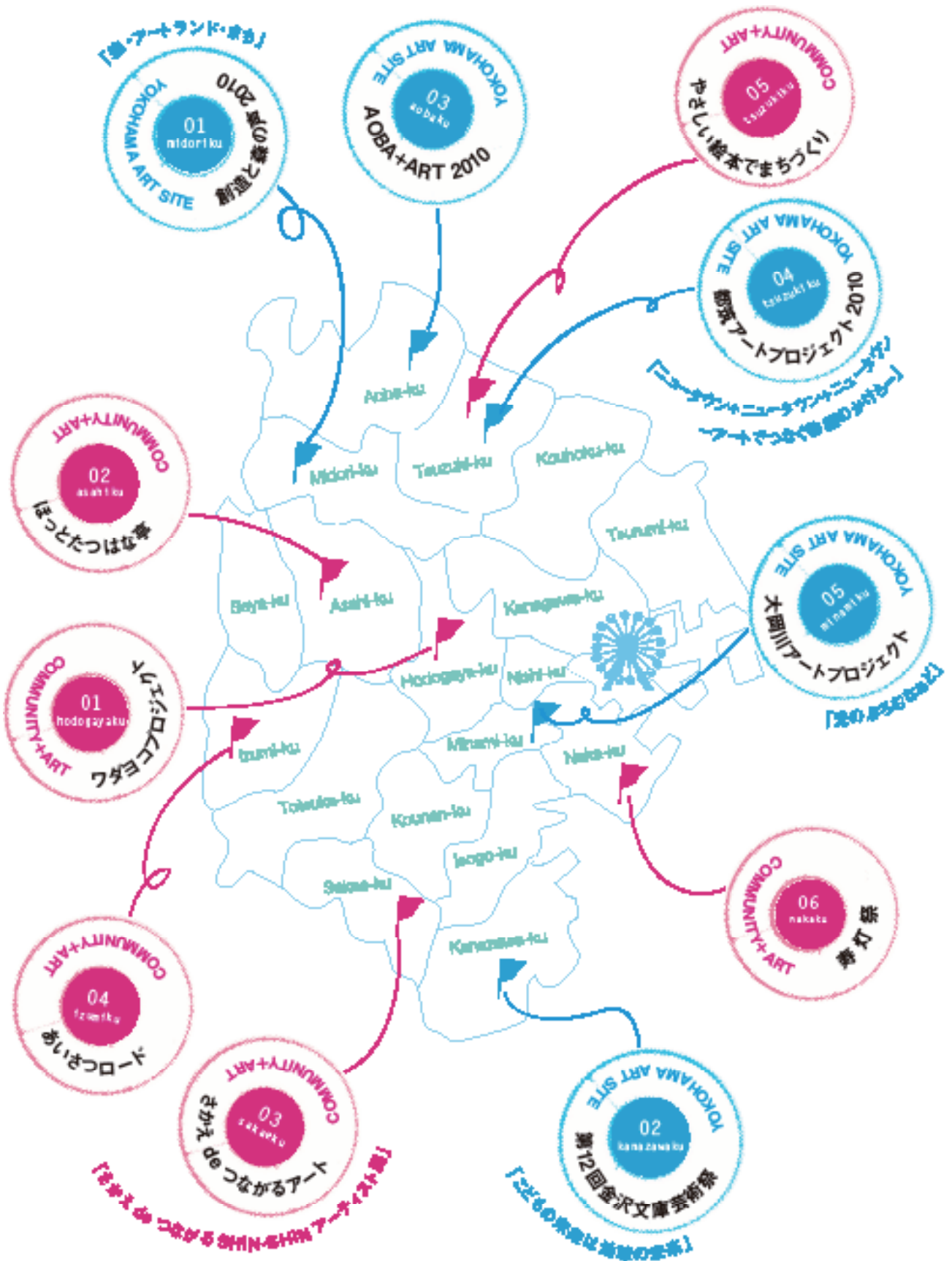
YOKOHAMA ART SITE 2010
COMMUNITY + ART



Jyuto-sai



YOKOHAMA ART SITE | COMMUNITY + ART Map



CONTENTS

- 03 「文化芸術による地域づくり事業」とは
- 04 横浜アートサイト2010 _01_Midori-ku
GROUP 創造と森の声
- 05 横浜アートサイト2010 _02_Kanazawa-ku
金沢文庫芸術祭実行委員会
- 06 横浜アートサイト2010 _03_Aoba-ku
AOBA+ART2010 実行委員会
- 07 横浜アートサイト2010 _04_Tsuzuki-ku
都筑アートプロジェクト2010 実行委員会
- 08 横浜アートサイト2010 _05_Minami-ku
大岡川アートプロジェクト実行委員会
- 09 コミュニティ+アート _01_Hodogaya-ku
ワダヨコ
- 10 コミュニティ+アート _02_Asahi-ku
旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと
- 11 コミュニティ+アート _03_Sakae-ku
さかえ de つながるアート実行委員会
- 12 コミュニティ+アート _04_Izumi-ku
多文化まちづくり工房
- 13 コミュニティ+アート _05_Tsuzuki-ku
コミュニティカフェ マローンおばさんの部屋
- 14 コミュニティ+アート _05_Naka-ku
寿オルタナティブ・ネットワーク
- 15 文化芸術による地域づくり事業シンポジウム
「地域コミュニティとアートを考える」
- 17 連携プロモーション
- 18 平成 22 年度 文化芸術による地域づくり事業
イベントスケジュール

「文化芸術による地域づくり事業」とは

横浜市内各地において地域に根ざし、その歴史や自然・街並みなどの豊かな地域資源の魅力を活かしたアート活動を実施する団体、アートの力で地域コミュニティの活性化を図る団体を募集し、様々な側面から各団体の事業実現をサポートしています。公益財団法人横浜市芸術文化振興財団と横浜市市民局とが連携し、平成 18 年度から実施している「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」と平成 20 年度から実施している「横浜アートサイト連携事業」を平成 22 年度に統合。新たに「文化芸術による地域づくり事業」を立ち上げ、コミュニティの活性化を目指すアート活動支援事業として実施しています。

フェスティバル部門「横浜アートサイト2010」

地域の街並みや歴史、自然、国際性など各地の地域資源を積極的に活用し、市民とアーティストが協働して地域密着型アート・フェスティバルの開催によるコミュニティ活性化を目指す事業。



コミュニティ部門「コミュニティ+アート」

芸術文化をツールとして、地域の方とともに地域課題の解決を目指すコミュニティ事業。
(旧「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」)

〔1〕平成 22 年度「文化芸術による地域づくり事業」参加団体の選出方法

参加団体を公募し、書類選考、公開ヒアリングを経て、計 11 団体を選出。

フェスティバル部門 <横浜アートサイト 2010 >

- 開催地域外も含めた集客性を見込めるフェスティバル性のあるもの。
- 美術、映像、音楽、舞台芸術などアートにかかわるものであればジャンルは不問。
- 地域の街並みや歴史、自然、国際性など各地の地域資源を積極的に活用して魅力を引き出すとともに、事業実施を通じてコミュニティの活性化を目指すもの。

コミュニティ部門 <コミュニティ+アート>

- 商店街、自治会等の組織や福祉施設、病院、学校等の施設において、美術、映像、音楽、舞台芸術などのアートを介し、地域福祉や環境問題等それぞれが抱える課題の解決やコミュニティの活性化に向けて取り組む公益的な事業。
- 普段はアートに触れる機会の少ない方々も含め、アートをツールとして用いることにより、参加者全員に一体感を醸成することを目指すもの。

<選考のポイント> オリジナリティ、市民とアーティストの協働、街の活性化、身近な会場、ボランティア参画の仕組み、自己資金の充実、PR 活動など。

〔2〕平成 22 年度「文化芸術による地域づくり事業」参加団体

フェスティバル部門 <横浜アートサイト 2010 >

創造と森の声 2010 森・アートランド・まち
[GROUP 創造と森の声]

第 12 回金沢文庫芸術祭「こどもの未来は地球の未来」
[金沢文庫芸術祭実行委員会]

AOBA+ART 2010 [AOBA+ART2010 実行委員会]

都筑アートプロジェクト 2010
ニュータウン+ニュータウン+ニュータウン～アートでつなぐ物語のかけら～
[都筑アートプロジェクト 2010 実行委員会]

大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと」
[大岡川アートプロジェクト実行委員会]

コミュニティ部門 <コミュニティ+アート>

ワダヨコプロジェクト [ワダヨコ]

ほっとたつはな亭
[旭区地域生活支援拠点ほっとたつ]

さかえ de つながる SHIN-SHIN アーティスト展
[さかえ de つながるアート実行委員会]

あいさつロード [多文化まちづくり工房]

コミュニティカフェ マローンおばさんの部屋
[やさしい絵本でまちづくり]

寿灯祭 [寿オルタナティブ・ネットワーク]

〔3〕平成 22 年度「文化芸術による地域づくり事業」支援メニュー

- 助成金の交付
- 「文化芸術による地域づくり事業」連携広報として、広範囲なプロモーションを展開
 - ポスター、チラシを全市域に配布
 - プレスリリース、WEB サイト、実施レポート発行
- 各団体が抱えている課題をヒアリングし、具体的な課題解決と自立を促進。
- 各団体が情報交換する機会を設定
 - キックオフミーティング、シンポジウム
- 各団体の事業展開に必要な各種サポートの実施
 - 所管官庁への申請補助・調整
 - 参加団体連携企画の実現サポート
 - 協力・協賛企業の紹介
 - アーティストや事業実施ノウハウ等の情報提供

創造と森の声 2010 森・アートランド・まち

< 緑区 > GROUP 創造と森の声



森の自然アートワークショップ 講師：吉川陽一郎



上：仮装パレードでまちから森へ（協力：金沢文庫芸術祭）
下：影絵芝居をつくろう（夜の森での発表会）

「森とまちをアートでつなごう」をテーマに、横浜動物の森公園予定地で様々なアートイベントを行いました。森での体験ワークショップは自然を生かしたたコラージュ作品、立体作品づくりが行われました。8/29（日）は、まちから仮装パレードで森のフェスティバルに参加、音楽や舞踊して影絵芝居、夜まで森は賑わいました。そして人形劇のひとつみ座の神秘的な森公演。9月は森の体験ワークショップ作品と作家の作品、写真の展示を中山駅周辺4カ所で行いました。期間中のスタンプラリー、コンサートはまちと森をつなげる試みとなりました。

【イベント概要】

会期：2010/8/21（土）～9/26（日）

会場：横浜動物の森公園予定地、JR 中山駅周辺、公共施設 ほか

参加アーティスト：吉川陽一郎、石黒和夫、原田暁、衛守和佳子、クラウン・ミーナ・WSP、ムンド・ノーボ、グンデルワヤン、ひとつみ座、ふう〜珍団 ほか

イベント：4月～7月「森を写そうワークショップ」

8月「森のサマーアートスクール」横浜動物の森公園予定地示

8/29（日）「森のフェスティバル」横浜動物の森公園予定地

9月「まち展示」中山駅周辺

9/4（土）森の人形劇「ゼロ弾きのゴーシュ」[注文の多い料理店]
横浜動物の森公園予定地

9/19（日）「金沢文庫芸術祭 出展」海の公園

9/25（土）「中山えきちかステージ コンサート」横浜地下鉄中山駅

共催：横浜市緑区

協賛：芸術文化振興基金助成、神奈川県文化芸術団体事業助成

後援：横浜市民政局、横浜市教育委員会、横浜市環境創造局、横浜市旭区

協力：横浜市交通局、中山商店街協同組合、花いっぱい会、NPO 法人グリーンママ、金沢文庫芸術祭、いいはるびじゅつ、ボイスカウト横浜第125団

【事務局インタビュー】

GROUP 創造と森の声

事務局代表 石山克幸さん

都会の中の森というマイナーな場所でのイベントをまちにつなげる試みは、昨年からの構想としてありました。多くの団体がまち中でのアートイベントを行っています、その難しさ煩雑さは経験してみないとわかりません。今回の企画は私たちにも多くの試練と課題を露わにし、それとともに大きな希望と喜びを与えてくれました。街角や道路、広場はあらゆる法律と規制があり自由には使えません。許可を得るためにはより具体的な企画と、粘り強い交渉が必要だったということです。しかし森で創った作品は、まちの様々な場所で人目を引くものとなり、多くの市民の暖かい声援と素直な反応をいただいたことは、実現までの苦勞が報われた気がします。日常気にも留めない場所が、作品を置くことで新鮮な場所に生まれ変わる…そのことは、よく考えるとアートの原点のような気がします。この経験を来年度につなげて、よりわくわくする「まち展示」を展開できたらと思います。

<< Photo >>

左：大看板
中：まち展示（中山ラブニール橋）
右：森のパン教室



第12回金沢文庫芸術祭「こどもの未来は地球の未来」

< 金沢区 > 金沢文庫芸術祭実行委員会



ロコ・サトシワークショップ



上：サンセットパレードで仮装することもたち
下：昨年からはまったサンドアートフェスティバル

1Day イベントでは、例年のアートストリート、フードなどの出展ブースや子どもの広場に加え、多摩美術大学の学生たちが「金沢文庫タウン」などのワークショップを企画しました。ステージは多くの出展希望者に対応すべく北と南の2カ所に設置しました。また、ごみ拾いを呼びかけるエコパレード、手づくりの衣装で練り歩くサンセットパレードを行いました。

街角アートラリーは、プロのアーティストから一般市民まで、30 出展を集めました。今回新たなガイドやDM を作成しました。出展者をまわるスタンプラリーも好評でした。

【イベント概要】

会期：2010/9/19 (日)～11/21 (日)

会場：海の公園、アサバアートスクエアなどのギャラリーや出展者自宅

参加アーティスト：ロコ・サトシ、ラビラビ、玉田多紀、カプリオル、村山二郎、ときたま ほか

イベント：9/19 (日)「1DAY イベント」海の公園

10/1 (金)～11/14 (日)「街角アートラリー」ギャラリーや出展者自宅

11/21 (日) ファイナルパーティー

共催：横浜市臨海環境保全事業団

後援：横浜市金沢区、横浜市市民局、横浜市教育委員会、神奈川県教育委員会、横浜金沢観光協会、

横浜商工会議所金沢支部、横浜金沢産業連絡協議会、神奈川新聞社、tvk、JCN よこはま、FMヨコハマ

協賛：ホルベイン工業(株)、(株)ミックコーポレーション、浅葉デザイン教室、池川クリニック、

大成整形外科クリニック、カトリック金沢会、風美容院、金沢区三師会、金沢白百合幼稚園、

(株)エッチ・アール・ディ、(株)金沢臨海サービス、ミロール、Cafe&BarEN、金八家ラーメン、

ふみくら茶屋、TheRoad&TheSky、東光禅寺、昭和精工(株)、むとう教材店、セブンイレブン横浜寺前店、

ダンデザイン(有)、浜坂医院、まいど金沢文庫店、山本助産院、(株)ダッドライン、ばおばぶ、

焼鳥番長、横浜高等学校、東セロ(株)

【事務局インタビュー】

金沢文庫芸術祭実行委員会
実行委員 井上えつこさん

晴天のもと海の公園で開催された1DAY イベントは、16,000 人の参加者を集め、人々の笑顔であふれました。子どもたちの参加も例年以上にあり、「こどもの未来は地球の未来」を掲げた意義を再認識しました。続く街角アートラリーでは、メインのギャラリーであるアサバアートスクエアのリニューアルオープンで、より充実した展示・公演内容となりました。主要スタッフが定着し、前回はふまえた企画・準備ができるようになり、ノウハウが蓄積されてきた感があります。地域住民や地元の人々、近隣小学校などとも良好な関係ができ、さらにそれを継続・発展していければと思っています。しかしゴミや音の問題など課題はまだあり、人々に気持ちよく参加してもらうためにはそれらを解決する策を試行錯誤しなければなりません。また、ただのお祭りさざぎではなく、信念とビジョンをもった芸術祭であることをなんらかの形で発信していく必要性も感じています。

<< Photo >>

左：海竜 / 玉田多紀

中：サンセットパレードに参加した
こどもたち

右：出展者によるライブペインティング



AOBA+ART 2010

< 青葉区 > AOBA+ART 2010 実行委員会



美しが丘の案内板 / ima



上: by the window 青葉のハロウィンバージョン / 池田光宏
下: 夢の写真館 / kvina

アートと共存する住みやすく美しい街にすることで美しが丘の魅力を高め、住民とアーティストが手を携えて進むアートプロジェクトです。2008年から3回目の開催となりました。青葉区美しが丘を中心とした住民及び自治会と、プロジェクトの主旨に賛同する実行委員からなる団体です。2010年度からは、住民の方々の声を作品制作のヒントにし、新たな展開となりました。現代美術を中心にした、毎年開催し継続するプロジェクトです。

【イベント概要】

会期: 2010/10/16 (土) ~ 11/14 (日) の土・日・祝日

会場: 田園都市線たまプラーザ駅周辺と美しが丘2~3丁目

参加アーティスト: 本間純、ima、池田光宏、池田晶紀、江口宏志、原高史、和田真帆、spoken words project、kvina、ブリック本店&ブリック・ベース、holiday、Zine Picnic、横浜市民ギャラリーあざみ野+アートハット・プロジェクトチーム ほか

イベント: 10/16 (土) 『サイズズ オブ メモリー AOBA FLOWER』 サダヤギャラリー

10/17 (日) 『彫刻あつまれ!』 美しが丘中部自治会館

10/23 (土) 『世界に1枚だけのTシャツをつくろう! 秋編』

たまプラーザテラス・ゲートプラザ2階スミス前休憩場所

10/24 (日) 『by the Window 青葉のハロウィンバージョン』 美しが丘中部自治会館

10/30 (土) 『お家で眠っている服をよみがえらせよう!!』 美しが丘中部自治会館

10/31 (日) 『青葉食堂の家庭訪問撮影会』 各ご家庭

11/3 (水) 『メガネ屋さんになってみよう!』 美しが丘中部自治会館

11/3 (水) 『アート屋台がやってきた! アート・ハットアートな帽子をつくりませんか?』

美しが丘中部自治会館前

11/7 (日) 『夢の写真館』 美しが丘中部自治会館

11/13 (土) 『ブックサイクリング!』 サダヤギャラリー

11/14 (日) 『zine picnic』 美しが丘中学校の体育館前広場 ほか多数

後援: 横浜市市民局、横浜市青葉区、青葉区連合自治会長会、青葉区商店街連合会、横浜美術大学、美しが丘中部自治会、横浜市立美しが丘中学校、横浜市立美しが丘小学校、東洋英和女学院大学付属かえで幼稚園、國學院幼稚園
協賛: 東京急行電鉄株式会社、住まいと暮らしのコンシェルジュ、ア・ラ・イエ、東急沿線情報サイトとくらく、たまプラーザテラス、東京ガス株式会社、東急バス株式会社、東京電力株式会社、川本歯科、イツ・コミュニケーションズ株式会社、東京海上日動サミュエル株式会社
協力: 株式会社ウィルコム、さどや ほか (順不同)

<< Photo >>

左: AOBA+ART おでん
中: サイズズオブメモリー
AOBA FLOWER ワークショップ
右: アートハット ワークショップ



都筑アートプロジェクト 2010

ニュータウン+ニュータウン+ニュータウン～アートでつなぐ物語のかけら～

< 都筑区 > 都筑アートプロジェクト 2010 実行委員会



ひみつ基地をつくらう/今井紀彰



上: 墓守のうた/金井聡和

下: 諸行無常の光アリ/タムラタクミ

市営地下鉄センター北駅構内から、歴史博物館エントランス外周大塚歳勝土遺跡公園、都筑民家園にわたる屋内外に、5人のアートディレクター（今井紀彰、金井聡和、鬼頭明稚、柴田芳作、藤井志帆）が推薦した17人のアーティストが古代遺跡、江戸古民家の場所性を活かした現代アート作品を展示しました。また地域とのアートを通じた交流では、展覧会開始前から期間中にかけて、参加アーティストにより地域の子供たちを対象にした各種ワークショップを開催しました。多くの方に作家と一緒にアートすることの楽しさを感じてもらえることができワークショップ参加者は総計1,000人を超え、ぜひ来年も参加したいと大好評でした。

【イベント概要】

会期：2010/10/19（火）～11/5（金）

会場：横浜市歴史博物館、大塚歳勝土遺跡公園、都筑民家園、横浜市中川小学校、東山田中学校コミュニティハウス、東山田郷土資料館、ドイツ学園、ハートフルスペース都筑、市営地下鉄センター北駅 ほか

参加アーティスト：朝岡あかね、浅見和司、阿部剛士、今井紀彰、大谷俊一、岡典明、小笠原森、小山祥吾、金井聡和、鬼頭明稚、酒井れん、柴田芳作、タムラタクミ、中西亨、藤井志帆、武藤亜希子、渡邊淳、菊池由紀子 ほか

イベント：9/20（月）プレイベント「お月見ライブ～二胡の夕べ～」都筑民家園主屋
10/8（金）～16（土）「民家園アートの軌跡」都筑民家園主屋
10/19（火）「オープニングパーティ」都筑民家園主屋
10/23（土）「道アート」ノースポート前歩道、「ひみつ基地をつくらう」大塚遺跡公園
10/24（土）、11/3（祝・水）「アートツアー」大塚歳勝土遺跡公園、都筑民家園
10/30（土）「アートお茶会」都筑民家園茶室（輪亭）
10/30（日）～11/3（祝・水）「オモヤカフェ」都筑民家園主屋

共催：横浜市都筑区

後援：横浜市市民局、横浜市交通局、(株)タウンニュース

協賛：ノースポートモール、ショッピングタウンあいたい、モザイクモール港北（順不同）

協力：e-プロジェクトkita、大塚歳勝土遺跡公園愛護会、

オモヤカフェ「おとなのおまごど」、センター北ハマロードサポーター、

都筑民家園協力者グループ、横浜市中川小学校、ドイツ学園、

東山田中学校コミュニティハウス、中川連合町内会、中川中央町内会、

センター北すずらんクラブ、ハートフルスペース都筑、横浜市民ギャラリーあざみ野、

神奈川まちづかい塾都筑プロジェクト、都筑民家園茶道愛好会、東山田郷土資料館

【事務局インタビュー】

都筑アートプロジェクト2010 実行委員会
委員長 木村 格さん

遺跡公園、都筑民家園を会場とした「都筑アートプロジェクト」は今回2回目の開催となり、「歴史的な場所性（古代から現代）と現代アート」という切り口で、作品を展示することができました。特に今年度は地域に開かれたアートを目指し、参加アーティストによるアートワークショップを数多く手がけ、地元の小学校の授業やドイツ学園の子供たちとも国際色豊かな交流が実現しました。会場の準備や会期中の警備などには都筑民家園の協力者グループ有志や歴史博物館活動支援ボランティア、駅周辺地元自治会の方々の絶大なる協力を頂き、地域の力の大きさにあらためて感謝しています。今後も地域の方々と協力しながら、地域に根ざしたアートプロジェクトを継続したいと思えます。その為にはアート展としても引き続き質の高いものを目指し努力することがアートプロジェクトの魅力を持続できる力だと思います。

<<Photo>>



左：中川小学校での共同制作風景

上：センター北駅から会場まで作品を展示
駅からつながるアート みんなでつくらう
アイコンフラッグ/浅見和司

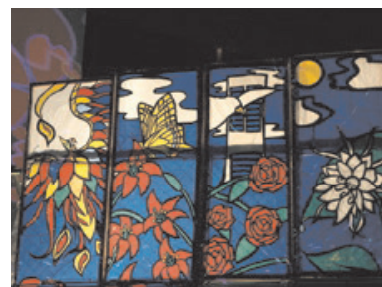
大岡川アートプロジェクト 「光のぷろむなあと」

< 南区 > 大岡川アートプロジェクト実行委員会

横浜 光のぷろむなあと



中村敬が首都高橋げたを映像によりライトアップ



上：星月夜／共進中学校美術部
下：川面に浮かび上がる光の花たち／蒔田中学校美術部

吉野町～南太田の間流れる大岡川周辺の遊歩道に和紙を使った行燈で「光の回廊」を作り出しました。また、首都高の橋げたをプロジェクターを使ってライトアップしました。蒔田公園内ではメインイベントとして地域の子どもが制作した4,000個のキャンドルホルダーに火をともし「キャンドルナイト」を実施し、南区の花「さくら」を浮かび上がらせました。同時に親水広場を舞台に「水辺の光コンサート」を実施。地元町内会による屋台「ほっと Hot カフェ」が応援となり、寒い中でも延べ5,000人が幻想的な冬の夜を楽しみました。

【イベント概要】

会期：2010/12/17(金)～19(日)

会場：蒔田公園親水広場「ふれあいアクアパーク」、大岡川流域、フォーラム南太田 ほか

参加アーティスト：中村敬(アートディレクター)、共進中学校美術部、蒔田中学校美術部、

日枝小放課後キッズクラブ×鶴巻謙郎、匠、ビッグバンド NAZCA、

井上亜美&ジェリクルーY、ブリーズ、前里町四丁目町内会バンド、

三宅太鼓吉野町クラス、NGB、TIDE、共進中学校吹奏楽部、

蒔田中学校吹奏楽部、H-Kid's dance Yokohama、

和太鼓 撥當、Wa-full ほか

イベント：12/17(金)「オープニングセレモニー」蒔田公園・ふれあいアクアパーク

12/18(土)「ミニキャンドルナイト“灯りをつけましょ!”」

蒔田公園・ふれあいアクアパーク

12/18(金)「ロビーコンサート」フォーラム南太田

12/18(金) 19(土)「水辺の光コンサート」蒔田公園・ふれあいアクアパーク

12/18(金) 19(土)「ホッと HOT カフェ」蒔田公園

12/19(日)「キャンドルナイト“咲かせよう、冬の夜桜、光のさくら”」

蒔田公園・ふれあいアクアパーク

後援：横浜市市民局、横浜市南区、神奈川新聞社、tvk、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会

協賛：三徳エステート株式会社、株式会社山武、横浜建物管理協同組合、鹿島・五洋・松尾建設共同事業体、

子供会蒔田支部、旅館松島、嵯峨乃家本店、お三の宮通りまちづくり委員会、お三の宮通り商店会、

医療法人佐藤病院、ヤマハミュージック東京横浜店、株式会社グローバル横浜警備保障 ほか多数

広報協力：横浜市交通局、横浜テレビ局、株式会社タウンニュース社

協力：蒔田連合町内会、お三の宮地区連合町内会、南太田1丁目第1・第2・第3・第4町内会、吉野町町内会、

清水ヶ丘第1町内会、蒔田公園愛護会、横浜市立蒔田中学校、横浜市立共進中学校、横浜市立日枝小学校、

横浜市立南太田小学校、日枝小放課後キッズクラブ、南太田小放課後キッズクラブ、

蒔田小はまっこふれあいスクール、横浜商業高校おやじの会、蒔田中学校おやじの会、南太田小学校PTA、

睦地域ケアプラザ、中村地区センター、匠、伊沢和紙工房、tvk コミュニケーションズ、

神奈川県横浜川崎治水事務所、横浜市環境創造局、横浜市水道局、フォーラム南太田、吉野町市民プラザ ほか

【事務局インタビュー】

大岡川アートプロジェクト実行委員会
アートディレクター 中村 敬さん

今回で3回目の開催となり、蒔田・吉野町・南太田界限ならではの個性や魅力が良い形で見えてきました。蒔田公園内に完成したふれあいアクアパーク(親水広場)が活用できるのも魅力でした。新しい試みとして光の演出やアート作品、また参加型キャンドル企画が増え、多くの人々が参加できる場が広がりました。中学生の作品の質が高くなり、小学校の総合学習にキャンドルナイトが組み込まれました。伊沢和紙行燈がほぼ壊されなかったことから、周辺住民の理解の高まりを実感しています。首都高ライトアップは実験的に「冬の夜桜」をイメージした映像を投影したところ好評で、発展していく可能性を感じました。街の人たちの潜在的な可能性を發揮できる場を創ること、街の人たちが楽しんで関われる場を創ること、蒔田・吉野町・南太田界限ならではの個性を取り入れていくことが、結果としてアートプロジェクトの質を高め、継続性へつなげると感じた年でした。

<<Photo>>



左：光のファンタジー／日枝小学校6年生
上：水辺の光コンサート

ワダヨコプロジェクト

< 保土ヶ谷区 > ワダヨコ



相鉄線和田町駅近くの旧町内会館を学生の手によってセルフリフォームすることで、学生と地域の方々との交流の場を創りました。リフォーム案を横浜国立大学生によるコンペによって決定し、学生の手で施工を行いました。

また、リフォームと同時進行で、学習塾に通えない子供や、授業についていけない子供が気軽に学生に勉強を教えてもらえる寺子屋を実施し、地域の子供たちと学生がふれあう機会を創りました。リフォーム完成後には、地域のためのギャラリーとして開放し、学生や地域の活動を発信する拠点となっています。

【イベント概要】

会期：2010/6/12（土）～2011/3/31（木）

会場：旧和田町町内会館

- イベント：6/12（土）リフォーム案コンペ開催
 10/16（土）オープニングセレモニー
 11/20（土）UNBUILT 展
 12/18（土）クリスマスパーティー
 1/15（土）横浜国立大学陶芸部展（開催場所はすべて和田町旧町内会館）
 7月から週1回程度の頻度で寺子屋実施

後援：Office Wit 代表取締役 石井一彦氏、横浜国立大学都市計画研究室、和田町商店街
 協賛：竹内化成 株式会社

【事務局インタビュー】

ワダヨコ

代表 西田周平さん

この1年を振り返ってみて、私たちがワダヨコという活動をする事が出来たのは、環境に恵まれ、色んな方々に見守られ、協力していただいたからだと思います。大学生だけではこれだけの活動は出来なかったと思います。場所を無償で提供して下さった株式会社 office wit 代表の石井様始め、回覧板や掲示版など告知活動に協力して下さった和田町西部町会、和田町タウンマネジメント協議会、資金援助をして下さった財団、横浜国立大学やワダヨコに来て下さった地域のみなさんのおかげだと思っています。そういったみなさんの期待に応えられるようにこれからもワダヨコという活動を継続させていきたいと思っています。今年度はギャラリーを2回しか開催出来なかったのですが、来年以降もっと多くのギャラリーやイベントを開き、地域のみなさんに大学生の作品や活動を発信し、またワダヨコを通して人と人をもっと繋げていきたいと思っています。

<< Photo >>

左：陶芸部展
 中：大学生が子供たちに勉強を教える寺子屋の様子
 右：クリスマス会



ほっとたつはな亭

< 旭区 > 旭区地域生活支援拠点 ほっとぽっと



旭区民まつり コンサート/出演(左から) 植木啓示、原かこの、松井イチロー



旭区民まつり ギャラリー

3つの活動を中心に地域交流を図りました。一緒に歌う等の参加型の企画も含めたコンサートを定期開催。様々な立場の方の作品を同じ空間で展示することで『ノーマライゼーションという作者のコンセプトアート空間』を目指したギャラリー。また、「持ち寄り朗読会」等を通じて、気楽に参加し自己表現できる場づくりをしました。

これらにより、精神障害をもつ人と地域の人々が身近な場所でアートや文化イベントを楽しみ創りつつ交流し、障害者支援施設を知ってもらうきっかけともなりました。

【イベント概要】

会期：2010/7/1(木)～2011/3/31(木)

会場：ほっとぽっと別館、地域活動支援センター「木楽舎」

参加アーティスト：中平マリ子、米澤浩、熊沢栄利子、野口マリ子、西山英里、小笠原伸子、
中瀬香寿子、吉川早苗、松井イチロー、植木啓示、原かこの、
野口茜、坂下頌 ほか

- イベント：7/28(水)「箏・尺八コンサート」ほっとぽっと別館
7/8(木)～10(土)「ギャラリー：はがきの中の美術館」ほっとぽっと別館
9/28(火)「フルート・ピアノコンサート」ほっとぽっと別館
10/16(土)・17(日)・19(火)・20(水)
「ギャラリー：帰ってこいよ展」ほっとぽっと別館
10/17(日)旭区民まつり特別企画「松井イチロー・ジャズコンサート」
鶴ヶ峰公園第6会場
11/17(水)自主企画「もちより朗読会」ほっとぽっと別館
11/26(金)「フルート・ヴァイオリン・ピアノ クラシックコンサート」
ほっとぽっと別館
12/21(火)「サクソフォン四重奏コンサート」地域活動支援センター「木楽舎」
2011/1/12(水)～17(月)「帰ってこいよ展(巡回展)」鶴ヶ峰ケアプラザ
1/19(水)「新春落語会」ほっとぽっと別館
2/17(木)「自主企画：親子で楽しむ整体講座&紙しばいPART3」
ほっとぽっと別館
3/25(金)フルート・ピアノ ジャズコンサート

【事務局インタビュー】

ほっとぽっと

施設長 川田 剛さん / 職員 星 貴朗さん

一緒に歌うコンサートや持ち寄り朗読会といった参加型の企画を通じて、場を共にすること、表現しあうことの楽しさを実感しました。同時に、参加者の幅が広がりました。ギャラリーでは、精神科の病院に長期入院している方たちの作品や文章の展示を通じて、ハンディをもつ人たちの存在を意識的にクローズアップする試みをしました。又、巡回展というかたちで出張展示を初めて行いました。

当事者、地域ボランティア、拠点職員、関係機関が立場を超えて集うミーティングを定期的に行き、活動の目的・意義や企画内容、PR方法を話し合っていく中で、活動を共に担っている相互の立場や思いを理解する契機となりました。

今後は、地域に向けた発表会や、ふだん家や病院から出てこれない人たちが参加できる機会などもつくっていききたいと思います。

<<Photo>>

右：コンサート/
出演(左から) 吉川早苗、
中瀬香寿子、小笠原伸子
下：旭区民まつり ギャラリー



さかえ de つながるアート 2010～2011

「さかえ de つながる SHIN-SHIN アーティスト展」

< 栄区 > さかえ de つながるアート実行委員会



作品と人々をつなぐアートツアー



上: 塔人間 / 石黒和夫
下: 参加型アート あしアート、いしアート、たけアート / 松本光世

さかえにつながりのある「新・進・真・親・信・深…」などの興味津々なアーティストが、文化芸術スポット「リリス」のギャラリーを不思議な空間に変身させました。まず、商店街を舞台に昨年11月に行った「アート de つながる ショップ・ショップ・ショップ」など、これまでの3年間につながったアーティストの作品が展示されます。かたわらで、栄の自然素材を使って観客が作る「ちょこっとアート」のワークショップ。作品が次々と加わるにつれ空間が変化します。そこに、音が奏でられ、身体感覚を研ぎすましたパフォーマーが作品群と関わりながら踊ります。アートツアーはさまざまなつながりを表しました。

【イベント概要】

会期：2011/2/2（水）～6（日）

会場：栄区民文化センター リリスギャラリー

参加アーティスト：北川純、石黒和夫、岩水亜沙子、オカベアコ、坂本芙未、佐々木貴行、工房・野楽、松本光世、青剣、菊地びよ ほか

イベント：2010/11/20（土）～26（金）

「アート de つながる ショップ・ショップ・ショップ」本郷商栄会を中心とした店舗
2011/2/2（水）～4（金）「公開制作・展示」栄区民文化センター リリスギャラリー
2011/2/5（土）～6（日）アート展示、ワークショップ、パフォーマンス ほか
栄区民文化センター リリスギャラリー

共催：栄区民文化センター リリス

後援：横浜市栄区、（株）タウンニュース社、JCNよこはま、横浜市民局

協賛：本郷商栄会

協力：アート de つながる ショップ振興会、栄区商店街連合会、さかえ地域通貨プロジェクト・イタッチ、社会福祉法人杜の会（SELP・社）、NPO法人みちくさみち（ぶらさんぬ）、さかえ区民活動センター「ぶらっと栄」、小菅ヶ谷地域ケアプラザ ほか（順不同）

【事務局インタビュー】

さかえ de つながるアート実行委員会
委員長 大塚 宏さん

「横浜アートサイト」の趣旨に賛同し、栄区役所とともに始めて3年経ちました。めざしたことは、アートの切り口で日常の暮らしをとらえなおし、おとなも子どもだれでもが、豊かに暮らせる地域を作ることでした。インスタレーション・シリーズ「つながるハート・アート」、上郷・森の家で行った総合アートフェスティバル、アーティストと店主と福祉作業所のコラボレーション

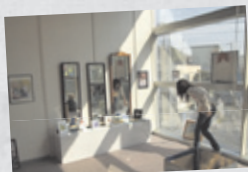
で生まれたお菓子のパッケージやTシャツ、シャッターアートなど、アートと地域のさまざまなつながりを育ててきました。

今年度は、区を中心部の商店街、本郷商栄会を舞台に、「お店の顔」をテーマにしたアートがたくさん生まれ、それをきっかけに、店主とアーティストと市民のつながりが生まれました。

ひきつづき、さかえのまちが産み出すものづくり（さをり織）を学び（アート de スクール）、さかえのまちの誇りをおみやげづくりにつなげていきます。

<< Photo >>

左：ジッパーⅣ / 北川純
中：まひるのゆめ よるのゆめ
光と呼吸 / オカベアコ
右：からだのある場 / 菊地びよ



あいさつロード

< 泉区 > 多文化まちづくり工房



壁画完成図



左：住民によるイメージボード作成図
右：多くの住人が話し合ってくれた施行中の様子



【事務局インタビュー】

多文化まちづくり工房
代表 早川秀樹さん

「あいさつロード」は、地域のお祭の中で、イメージボードをみんなで書きこむことから始めました。そして、地域の中心であるいちよう小学校の中央通りに面した壁面に、4つの国をモチーフにした壁画を地域出身のアーティストなどに描いていただき、その後、地域行事の中でお披露目をすると同時に、地域に住む多国籍の若者たちがそれぞれの国のあいさつの言葉を書き入れてもらい、完成しました。

作成中からも、地域のみなさんから、これからはいろいろな国の壁画を増やしていきたい、という声をたくさん聞くことができ、完成した壁画を見ながら、「『ありがとう』はカンボジア語で『オークン!』なのね」といったように、いろいろな国の言葉を口にする地域の方などもたくさん見るようになりました。

今回完成した壁画を地域で大切に、地域内の交流に活かすとともに、取り組みを継続し、地域の象徴となるようなものを壁画を作っていきたいと思っています。

多様な文化背景を持つ人が多く住んでいる横浜市泉区のいちよう団地で、多くの人が通行する中央道路に面した小学校の壁を利用し、それぞれの国をモチーフにした壁画を描き、そこにあいさつの言葉を書きこみました。今年度は、日本（いちよう団地）、中国、ベトナム、カンボジアの4カ国を取り上げ、多文化共生交流会等でアイデアを集めたり、団地のイベントにあわせ、お披露目の場を設け、各国語のあいさつを書き込んだりと、地域の人達の交流のきっかけになるいい場づくりができました。

【イベント概要】

会期：2010/10/3（日）～2011/1/9（日）

会場：横浜市泉区いちよう団地内

参加アーティスト：楠嘉章、サカモトセイジ、野渡司馬

後援：いちよう団地連合自治会、横浜市立いちよう小学校

<<Photo>>

左：小中学生による除幕式
中：カンボジアの壁画前にて
右：小学生の人気スポットに

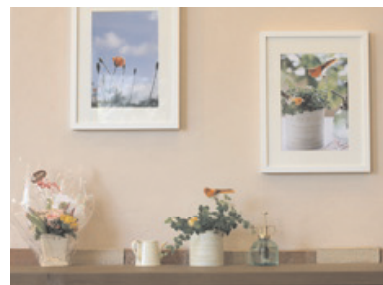


やさしい絵本でまちづくり

<都筑区> コミュニティカフェ マローンおばさんの部屋



コミュニティカフェ マローンおばさんの部屋外観



上：ぶうりショップ
下：五十嵐理恵子写真展

コミュニティカフェで施設利用者と協力者がアーティストとして参加するミニ展覧会を月替わりで開催しています(6～3月)。

外部の講師(葉祥明美術館館長の堀内重見先生)をお招きして手づくり絵本教室を開催しました。昨年度に続いての2回目のシリーズで、絵コンテ制作から製本までを行います。地域の人のための絵本作りを地域活動支援センターの仕事として受注できるような環境を整備中で、その一環としてイラストレーター講習を始めました。カフェに置く絵本を追加で購入し、地域の方々にも読んでもらいます。

【イベント概要】

会期：展覧会> 2010/6/24(木)～26(土)、7/20(火)～22(木)、8/24(火)～27(金)、
10/26(火)～28(木)、2011/2/23(水)～25(金)、3/23(水)～25(金)
絵本教室> 2/7(月)、2/14(月)、2/21(月)、2/28(月)、3/7(月)、3/14(月)
イラストレーター講習会> 1/14(金)、21(金)

会場：コミュニティカフェ マローンおばさんの部屋

施設利用者&協力者：榎本義弘、船田有樹、五十嵐理恵子、原田紗弥佳、山崎栄子

イベント：2010/6/24(木)～26(土)時「一瞬の輝き」榎本義弘個展(水彩画)
7/20(火)～22(木) TOKI「一期一絵」船田有樹個展(CGデザイン)
8/24(火)～27(金) TOKI「撮っておきの瞬間」五十嵐理恵子写真展
写真集出版、ぶうりショップ(五十嵐さんの娘さん小5企画)
8/25(水)写真講座 佐藤良平先生講師
10/26(火)～28(木)「TOKEN」原田紗弥佳個展&ライブ
パステル画、CD製作販売、イメージDVD製作上演
3/16(水)～18(金) 時～永遠に～山崎栄子個展

共催：都筑区生活支援センター、こころ野(個展&ライブ共催)
協力：ウィーキャン世田谷

【事務局インタビュー】

特定非営利活動法人 五つのパン
理事 船田富士男さん

カフェの名前は絵本「マローンおばさん」からとっており、弱さを抱えた方々の居場所を目指しています。施設利用者にアートを愛し、作品づくりをする人が多く、月替わりでの展覧会をスタートしました。展覧会に当たっては、出品する人だけでなくポスターや案内状づくりなど準備に他のメンバーが一致協力して当たりました。

マローンおばさんの部屋は2010年2月にオープンしましたが、地域の方々が多く集い、中には私たちの活動に協力くださる方もいます。各展覧会にも地域の方々に来て観てくださいましたが、イベントの中では「ぶうりショップ」やライブが盛況でした。マローンおばさんの部屋では製本技術を学び、カレンダーや手帳を作ってきましたが、それを絵本づくりにも活かしたいと願っています。絵本教室やイラストレーター学びがそのためにも用いられればと思います。

<<Photo>>

左：原田紗弥佳ライブ
中：絵本教室
右：手帳づくり



寿灯祭

< 中区 > 寿オルタナティブ・ネットワーク



左/上: 実施風景 (Photo:Ken Kato)
下: 準備風景

中区寿町エリアで展開している「KOTOBUKI クリエイティブアクション」と連携して実施。寿町のマイナスイメージのひとつを背負う廃カップ酒瓶を地域資源と読みかえ、数回のワークショップを経て制作収集した灯絵を用い、灯明としてよみがえらせました。酒瓶は約1,200個を使用。サークルが混じり合うレイアウトで多様なコミュニティの交流を表現しました。プログラムの全体構成は普段から活動に取り組むデザイナーが担い、大学研究室もその一部を担当、実施中アーティストと地域住人のコラボレーションによる音楽演奏を行いました。

【イベント概要】

会期：2010/11/12（金）17:00-19:00

会場：寿町総合労働福祉会館

参加アーティスト：NOGAN、神奈川大学曾我部昌史研究室、平魚泳、大藪勝彦、教会の牧師さん

共催：寿地区自治会

後援：横浜市市民局

協力：寿福祉センター保育所、ことぶき保育園、寿診療所デイケア「なごみの里」、CFAY Detachment Negishi (CFAY NOON)、NPO 法人 市民の会 寿アルク、神奈川大学曾我部研究室、財団法人寿町勤労者福祉協会、山多屋酒店

助成：ハウジングアンドコミュニティ財団「住まい・まちづくり担い手事業」

企画：クリエイティブデュオ「NOGAN」

【事務局インタビュー】

寿オルタナティブ・ネットワーク
事務局長 橋本誠さん

普段から展開する「KOTOBUKI クリエイティブアクション」が3年目を迎える中で、活動団体、アーティストの「やりたい」気持ち为主导するプログラムだけではなく、地域住人がより主体的に参加でき、お祭りのように毎年実施できるプログラムが必要とされていました。本事業はそのような、アーティスト、活動団体、地域住人、誰もが楽しく参加することができ、交流の契機になるプログラムになるよう心がけて推進しました。初回ということで事務局や企画制作を担当したクリエイティブデュオ「NOGAN」主導で進めてしまった部分が多くなってしまいましたが、プログラムの基本スタイルを確立することができ、多くの地域住人の参加、賛同を得ることができましたので、継続実施へ向け地区自治会と調整を進めています。

<< Photo >>

左：広報チラシ / 兼ポスター
中：ワークショップ風景
右：ワークショップで制作した灯絵



平成 22 年度 文化芸術による地域づくり事業シンポジウム

『地域コミュニティとアートを考える』

【第 1 部】文化芸術による地域づくり事業 参加団体プレゼンテーション

【第 2 部】「地域コミュニティとアートの現状」+ディスカッション

日時：平成 23 年 1 月 29 日（土）

会場：ヨコハマ創造都市センター 3F スペース

参加者数：114 名

ゲスト：芹沢高志 (P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター)

プレゼンテーション：文化芸術による地域づくり事業参加団体

進行：菅原幸子 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ長)



芹沢高志 (P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター)

僕がやっていた「別府現代芸術フェスティバル 2009 混浴温泉世界」というのは、3 年後にまたやろうという勢いで進んでいますが、フェスティバルというより街にずっと続いていく 1 つの活動であるべきだと思っています。去年 11 月に開いたシンポジウムで面白かったのは、色々な違うところで活動する人がそれぞれ違う言い方で、「物質的な意味での成長、拡大の時代というのは、当たり前だけど終わっている。地球全体の事を考えても無限の成長」というのは幻想なのだ」と。アートなり何なりをその地域で展開していく際に、そのことに意識的になっておかないと、色々なことに翻弄されやすい状況だなと思います。全体的に考えれば縮んでいく時が来ていて、そう言うみんなそこで元気がなくなりますよね。でもむしろ元に戻るようなものですから。スケールアウトして人間のサイズ以上に巨大になってしまったものを、もう一回コンパクトなものにしていく時に、アーティストだけではなく、ありとあらゆる創造性を縮小の仕方にぶちこめば良いと思うし、それこそが我々がやるべきことではないかと思っています。いま資源を使って無限の成長をしようとしたら地球が持たないわけで、我々が今、日本の中で抱えている問題に対して、創造的な解決方法を考えていけば、大げさな意味ではなく、今後の人類や地球の為になっていけると信じています。特に近頃は、地域振興という枠の中で「コミュニティとアート」とか「地域とアート」ということが語られることもよくありますよね。今日お話を聞かせてくださったみなさんは、自発的に始めて一本筋が通ってやっているから良いのですが、とても大きな状況の中では、「地域振興つまり街の為にアートは何をしてくれるのか」というような所に追い込まれることも多々あると思います。とても行政的な言い方ですが「地域振興」という話と同じように「文化芸術の振興」という話もあって、そうなるべくとこちらからはいかに「地域を使うか」という発想も出てくるかもしれない。つまり文化政策の中だけではなくて、もう少し違う所、例えばいま文化はお金が大変だから、むしろ文化活動以外の所からお金を持ってきて、文化芸術活動をしたほうが良いと考える場合もある。地域に密着してアート活動をやっている方達は、こういったすごく微妙な状況の中に置かれることが多いと思うんです。色々な状況の中で、自分がこれからどう進むか、あるいはどういう活動をしていくのかを問われる局面が、昔よりとても多くなった気がするんですよね。自分達のやりたいことだけやっていけば良いということではすまなくなり、外部から色々な誘惑

や圧力が働いて、以前よりそういう力学が複雑に絡み合っていると、僕自身、各地で直接何かアートプロジェクトをやろうとすると、このことをかなり身に沁みて感じます。その時に自分がどう進むべきか、いつでも問われるわけで、何か一本筋が通っていないと、その状況に流される可能性があるなと思います。一方で周りの状況に歩み寄って、自分を変えていくというのはすごく重要なことだとも思うので、そのバランスみたいなものがすごく今難しいなと実感しているんですね。だから多分、自分達がどうしてこんなことを始めたのかという、原点みたいなところが一番重要となる。それがあから皆さんずっと続けてらっしゃると思うので、一番最初にやり出したときのことをいつもいつも再確認して、新しい状況の中に入っていくことが必要なのだろうと、みなさんのお話を伺っていて思いました。

石山克幸 (GROUP 創造と森の声)

我々の住んでいる地域は横浜でも有名な緑地で囲まれていて、そこに自然保護的なワークショップ講師として呼ばれた方が、「ここが好きだったら、何かやってしまえばいいんだよ」と言われて、ああそうなんだと。誰に許可を取るのではなく、そこで楽しいことをやる。やるのが決まったら、お金は後からがんばって取る、これしかないんだと。アーティストというのは最初からまずやってしまう人達ですが、その力を実は我々普通の人達も持たなければいけない。やったら楽しくなる、活き活きしてくる。それがずっと私を動機づけていることです。

浅葉 弾 (金沢文庫芸術祭実行委員会)

僕達は 12 年間やってきて、継続することがとても大事だと最近感じています。やはりお祭りとしてやっているの、地元の人に愛される形が理想的だと思っています。ようやく最近になって知名度が少しずつ上がってきて、それでも 12 回やってもまだ少しなんです。やはり地域コミュニティ活動として密着する難しさというのは改めて感じていて、それを今後どうしていこうかというのは、常々感じていることですね。

本間 純 (AOBA+ART2010 実行委員会)

僕自身は住宅街で作品をつくる可能性というか潜在能力、人も含めてそこでやっていく面白さというのを感じています。参加している他のアーティストもみんなそういうことに共感して集まって来てくれていて、最初は僕達だけが勝手にそこに入り込んで

やっていた感じも否めなかったんですが、3年やってみてふと気がついてみると、外から来たサポーターやもちろん住民の人達の仲間の輪が広がってきていて、そこからまた新しいものが生まれてくる可能性があると感じています。

今井紀彰 (都筑アートプロジェクト2010 実行委員会)

今回の企画で小学校に職業体験へ行ったのですが、とても大事なことをやっている気がしました。職業が選択肢の中にしかないとか、与えられる世界観が狭い世界もあると思うんですが、僕らがアートでそれをやる時に、もっと他にある世界を見ることが出来るんじゃないかと思っていて、そこが立ち位置になると思います。今回のようなワークショップを一回でも経験したお子さんは将来違って来るかもしれないので、みんなが少しでも良いと思うことを少しずつやっていくのも大事なことだと思い、これからもやっていこうと思います。

中村 敬 (大岡川アートプロジェクト実行委員会)

僕は横浜に住んだ途端に大岡川に関わるころから始めて、その間ずっとやっていたのは、「横浜という街を知ること」でした。実際に住んでみると最初は土地の歴史が見えてきて、3回目の今回は徐々に人が見えてくる状況が起こっていて、非常に面白くなってきています。また他の地域のイベントにも行く中で、イベントの雰囲気とその街の雰囲気というは、どことなく似通っているととても感じています。要するにこういったアートイベントは、その街の雰囲気や個性を探すものなのかなと。その街の空気が、チラシやポスターひとつとっても、色々なところに入っていきという気がしました。

岸本しおり (ワダヨコ)

僕は横浜に住んだ途端始めた動機は、私たちの通う大学と和田町が近くにあるのに、何も繋がりが無いのはとても寂しいというところから始まりました。これは私たちの団体の将来的な目標でもあります。学生と街の人がより気軽に関わり繋がるようになりたいと思っています。これから私たちがやっていくべきことは、今回せっかく場を作れたので、そこを学生と和田町地域の人達が一緒に使うことによって、共有の思い出を作っていけたら、大学と和田町の絆がもっと深まっていくのではないかなと思っています。

和田公一 (旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと)

福祉分野の言葉で「ノーマライゼーション」という、偏見も不公平もなく平等で当たり前のように一緒に生活をしていく思想があります。作品だけを見たら、障がい者かそうではない人が作ったのかわからない作品と同時に、「30年入院しているのがどういことかわかりますか？」という作品もある。アートを通



じているから、それがさりげなく出来る。なんとなく横にいる人が精神障がい者という、そういう場が作れる力を感じながら、今後も「続ける」ことが大事ですのでやっていきたいと思っています。

大塚 宏 (さかえ de つながるアート実行委員会)

今の課題であり今後の動機につながることは、資金的な面で自分達でお金を稼いだり得たりを通じて、地域の中で「続けるアート」をやっていくべきなのかなと思っています。良いものをどうしたら届けられるのかとか、自分達が学びたい、身につけたいということに答えること。そういう風にして、だんだん助成金に頼る時期でもなくなってきたので、資金稼ぎをしながら続けるアートというのを、これからも模索したいと思っています。

早川秀樹 (多文化まちづくり工房)

私達がやっていることは、色々な文化を持っている人達の違いがあって初めて出来る活動だと思っているので、彼らと繋がることで、新しい街の作り方が出来るのではと思って活動しています。外国籍の人が多く「言葉が通じなくて大変」とマイナスイメージを持たれがちですが、様々な違いを持った人達が沢山住んでいる、ある意味魅力的な楽しい街が出来るというプラスのベクトルに置き換えてみる。その象徴として今回のような取組みができる、地域の人達にもそういったものをプラスに捉えられるようになっていくのかなと思っています。



岩永敏朗 (コミュニティカフェ マローンおばさんの部屋)

子どもを亡くした悲しみを乗り越え絵本の読み聞かせを地域で16年間続けている方から病気の子どもに届ける絵本を作してほしいと頼まれたことがきっかけとなって絵本を作り始めました。弱さを持った子どもたちや障がいを持たれた方、地域の子育てに悩んでいる主婦の方や、いろんな方々と共に、将来に希望を抱けるような絵本作りができたらと思って絵本にこだわっています。仲間全体を、そういう優しい絵本で包み込むようなことを将来的にも出来ればいいと思っています。もうひとつは、障がいを持った方々が仕事体験出来て、自分達の生きる希望や方向性、働く喜びを分かち合っていくような街にしていきたいと思っています。

橋本 誠 (寿オルタナティブ・ネットワーク)

私達の活動の中で、関わるアーティストが普段の作家活動とは少し別に捉えている方もいて、作品を作るというより「何か関わって自分のこれからを考えていくということ、その生き様が表現なんだ」と見えてくる節があります。他にもここに関わる人のモチベーションというのが、それぞれやっていることは違うけれども非常に近いと思っています。そういった感じである種関わる人の方向性が見えてきたので、外から入ってくる人の入口と、地域側の関わりたいというものを、上手く繋いでいくような形で継続していけたらと思います。

連携プロモーション

「文化芸術による地域づくり事業」では、全団体連携したプロモーションツールを作成し、単独の団体では難しい市内外に広範囲な広報を展開しました。



「文化芸術による地域づくり事業」ポスター (B2 サイズ)



「文化芸術による地域づくり事業」ちらし (A4 サイズ)



「文化芸術による地域づくり事業」募集要項 (A4 サイズ)



「文化芸術による地域づくり事業」シンポジウム
「横浜アートサイト2010」 「コミュニティ+アート」報告展チラシ (A4 サイズ)



「文化芸術による地域づくり事業」WEB サイト

平成22年度 文化芸術による地域づくり事業 イベントスケジュール

2010

4月中旬 参加団体公募開始

5/14 (金) 公募締切り

5月中旬 第一次書類審査

5/30 (日) **第二次選考「公開プレゼンテーション」「ヒアリング」**
@ヨコハマ創造都市センター

<選考委員> 村田 真 (美術ジャーナリスト)

大澤寅雄 (株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 / NPO 法人アートNPOリンク)

菅原幸子 (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ長)



○ 5/30
第二次選考「公開プレゼンテーション」
一般の来場者にも見学いただける、審査の
公開プレゼンテーションを開催しました。

6/16 (水) 参加団体決定・発表

4月～5月 各団体個別ヒアリング

7月～

2011年3月 各団体事業開催



○ 1/24～30
「横浜アートサイト2010」「コミュニティ+アート」報告展
ヨコハマ創造都市センター1Fホールを使用し、今年度
の活動・作品を展示。本事業全体を俯瞰できたと共に、
会場内で鑑賞しながら併設カフェの飲食が可能だったこと
も好評でした。

2011

1/24 (月) **「横浜アートサイト2010」**
～30 (日) **「コミュニティ+アート」報告展**
@ヨコハマ創造都市センター



1/29 (土) **文化芸術による地域づくり事業シンポジウム**
「地域コミュニティとアートを考える」
@ヨコハマ創造都市センター

プレゼンテーション/文化芸術による地域づくり事業 参加11団体代表者

ゲスト/芹沢高志 (P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター)

モデレーター/菅原幸子 (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ長)

○ 1/29
文化芸術による地域づくり事業シンポジウム
全団体からの活動報告プレゼンテーション
と、ゲストに芹沢高志さんをお迎えし、国
内の地域コミュニティとアートの現状などを
伺いました。横浜市内外から100名を超す
方々が来場しました。

※敬称略

写真：笠木靖之 (1枚目除く)



○ 1/29 交流パーティー
シンポジウム後、モコメシさんによる「文化
芸術による地域づくり事業」をイメージした
フードを中心に、報告展示会場の中で、作
品やレポートを見ながらのパーティーを開
催。来場者全員のコミュニケーションがよ
り一層深まりました。

Sozotomorinokoe



Tsuzuki Art Project

Wadayoko Project

Hot Tatsuhanatei



Yasashii Ehon de Machizukuri



発行日 / 2011年3月20日

デザイン / 野本あやこ

編集・発行 / 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
〒231-8315 横浜市中区本町 6-50-1 ヨコハマ創造都市センター